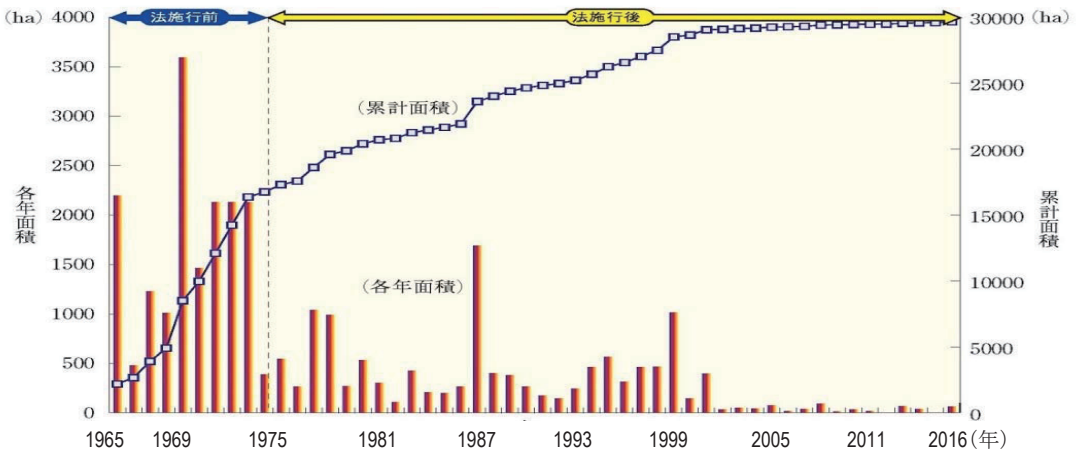
2．藻場・干潟の変遷と現状

（1）藻場・干潟の場の喪失

瀬戸内の藻場・干潟が分布する沿岸浅海域は、特に戦後の高度経済成長期の工場用地確保のため埋立てられ、明治時代以降からの埋め立てを含めると、瀬戸内全域での埋め立て面積は、約 46,000ha（460k ㎡）にのぼり、これは瀬戸内海最大の島である淡路島（兵庫県）の 3/4 に匹敵する面積である。現在、瀬戸内海における埋め立て事業は、瀬戸内海環境特別措置法により十分配慮しなければならないと述べられており、法施行後瀬戸内海の埋め立て免許の面積は減少した。しかしながら、干潟の埋め立てはそれ以降も続いている。（図４）



注）1.1965 年～1972 年は 1 月 1 日～12 月 31 日、1973 年は 1 月 1 日～11 月 1 日、1973 年以降は前年の 11 月 2 日～11 月 1 日の累計　（瀬戸内海環境保全特別措置法は、1973 年 11 月 2 日に施行）
2.図中の 1971 年～1973 年値は、3 年間平均の数値を示した。
出典：環境省調べ

図４　瀬戸内海における埋め立て面積の推移

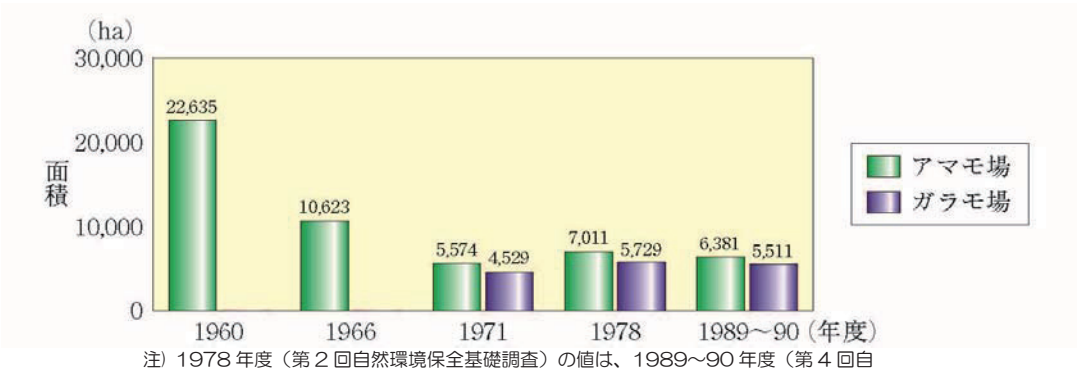
（2）藻場・干潟の面積の推移

埋め立てによる直接的な影響と工場排水、生活排水や近年の温暖化に伴う水温上昇等による水環境悪化影響により藻場・干潟の面積が大幅に減少した。

瀬戸内海の主要な藻場のアマモ場は 1960 年には 22,635ha（226.35 ㎢）あったが、1990 年には 6,400ha（64 ㎢）に減少した。（図５）

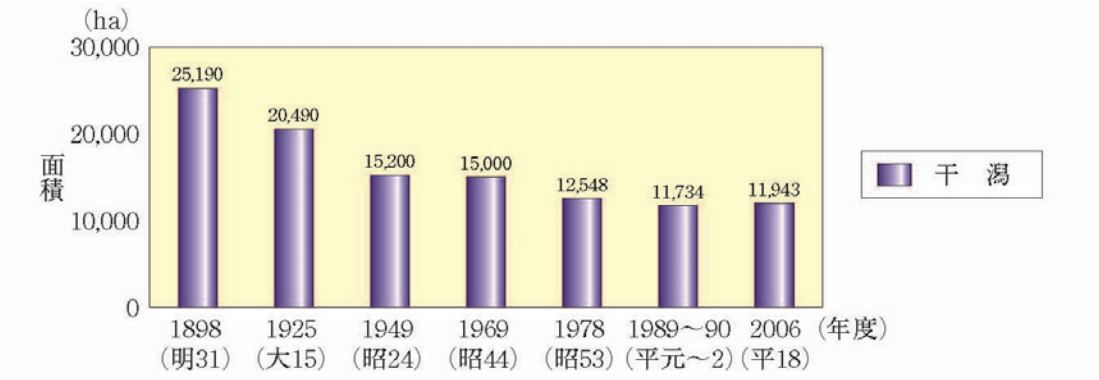
干潟についても 1898 年から 2006 年度までに約 5 割が消失したが、1989～90 年度から 2006 年度までにわずかではあるが増加している。（図６）

なお、環境省が 2015～2017 年度に実施した最新の藻場・干潟調査（衛星画像使用）は面積測定方法が異なるため比較が難しく、全域での現況は表５に記載するにとどめた。



注）1978 年度（第 2 回自然環境保全基礎調査）の値は、1989～90 年度（第 4 回自然環境保全基礎調査）の面積に消滅面積を加算した値である。
出典: 1960、1966、1971 年度：水産庁南西海区水産研究所調査
1989～1990 年度（第 4 回）：「自然環境保全基礎調査」（環境庁）

図５　瀬戸内海における藻場面積の推移（響灘を除く）



注） 1.出典により、面積測定方式に違いがある。
2.1978 年度（第２回自然環境保全基礎調査）の値は、1989～90 年度（第４回自然環境保全基礎調査）の面積に消滅面積を加算した値である。
出典: 1898、1925、1949、1969 年度：「瀬戸内海要覧」（建設省中国地方整備局）
1978 年度（第２回）、1989～1990 年度（第４回）：「自然環境保全基礎調査」（環境庁）
2006 年度：「瀬戸内海干潟実態調査報告書」（環境省、平成 19 年３月）

図６　瀬戸内海における干潟面積の推移（響灘を除く）

最新の湾灘別面積調査結果（表５）では、藻場（海草+海藻）は燧灘、響灘、周防灘、備讃瀬戸、伊予灘の順に広くしている。干潟は周防灘、燧灘、広島湾、伊予灘、備讃瀬戸の順に広く、瀬戸内中部から西部の湾灘で広く分布している。

表５　現在の瀬戸内海の湾灘別の藻場・干潟面積

（ha）

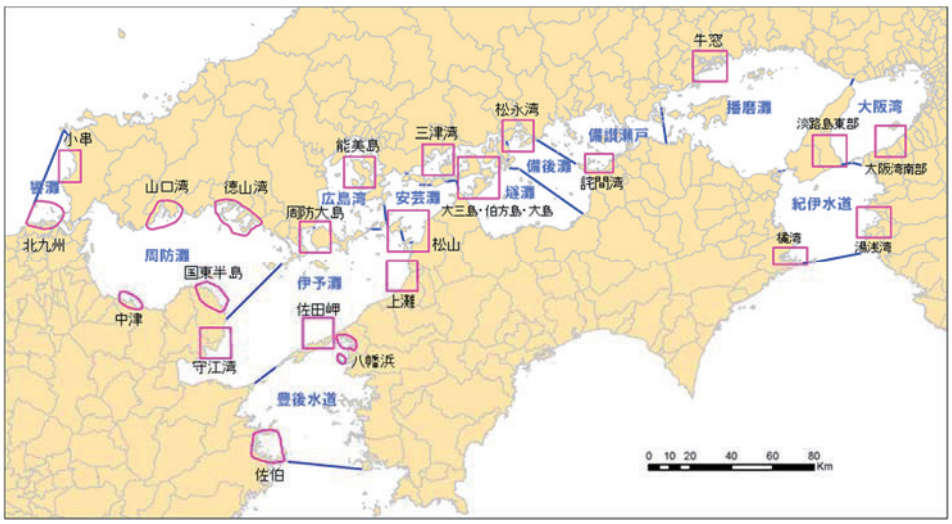
海域名称	藻場面積	干潟面積
紀伊水道	800	203
大阪湾	335	47
播磨灘	1,395	367
備讃瀬戸	1,435	406
備後灘	470	338
燧灘	3,251	1,444
安芸灘	449	176
広島湾	668	833
伊予灘	1,434	594
周防灘	1,925	6,541
豊後水道	1,224	69
響灘	2,218	46
合計	15,604	11,064

注）過年度とは面積測定方法が異なるため直接の比較はできない。
出典：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省、平成 27 年～29 年度）

過年度と比較するため、23 エリアで実施したヒアリング調査結果について同様の手法で実施した 25～26 年前（平成元～2 年）と比較（表６）すると、海草（アマモ）は 14 エリアで増加、３エリアで減少、海藻は 10 エリアで増加、11 エリア減少し、藻場全体では、12 エリアで増加、11 エリアで減少となった。干潟は３エリアで増加となった。

表６　　瀬戸内の藻場・干潟面積の過年度増減比較
（平成元～2 年と平成 27～29 年の比較）

エリア名		藻　場			干　潟
		海草（ｱﾏﾓ）	海藻	合計	
湯浅湾		→	↗	↗	→
橘湾		↗	↗	↗	→
大阪湾南部		↗	↗	↗	→
淡路島東部		→	↘	↘	→
牛窓		↗	↘	↗	→
詫間湾		↗	↘	↘	↗
松永湾		↗	↗	↗	→
三津湾		↗	→	↗	→
大三島・伯方島・大島		↗	↗	↗	↗
能美島		↗	↗	↗	↗
周防大島		↘	→	↘	→
守江湾		↗	↘	↘	→
松山		↘	↗	↗	→
上灘		↗	↘	↘	→
佐田岬		↗	↘	↘	→
徳山湾		↗	↘	↘	→
山口湾		↗	↘	↗	→
小串		→	↘	↘	→
北九州		→	↗	↗	→
中津		↗	↘	↘	→
国東半島		↘	↗	↘	→
佐伯		→	↗	↗	→
八幡浜		→	↘	↘	→
変化状況	増加	14	10	12	3
	減少	3	11	11	0
	変化無	6	2	0	20



注）表の増減矢印は下記出典の数値データを元に作成
出典：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省、平成 27 年～29 年度）